

建設業労働災害防止協会による 『建設工事に従事する労働者に対する安全衛生教育』について

(株) 大 本 組

右俣谷第1号砂防ダム
耐震補強及び嵩上工事

工 期 自：平成13年 7月10日
至：平成17年12月25日



○ 現場代理人 山田 芳丈
監理技術者 垣貞 充男

1. はじめに

本工事は、中部山岳国立公園内に位置し、自然環境に恵まれ、また槍ヶ岳の登山道に隣接した工事となるため景観に配慮した工事となりました。工事の内容は、蒲田川支川・右俣谷における、既存の右俣谷第1号砂防ダム前面に腹付けを行い、耐震補強と嵩上を図るものでした。またそれに伴い、障害となる既設の副堰堤の一部を除却して、下流に副堰堤を新設するものでした。

平成13年に着工した5年の国債工事も平成17年8月11日に無事、無事故で竣工を迎えることが出来ました。その中で本工事で行なった安全教育訓練、建設業災害防止協会による『建設工事に従事する労働者に対する安全衛生教育』について紹介致します。

2. 工事概要

土 工 掘	削	$V = 17,200.0 \text{ m}^3$
盛土・埋戻し		$V = 23,800.0 \text{ m}^3$

本ダム工	堤	長	L=	1 3 5 . 5 m
	堤	高	H=	2 0 . 0 m
	コンクリート工		V=	1 0 , 4 8 2 . 0 m ³
副ダム工	堤	長	L=	1 1 6 . 0 m
	堤	高	H=	1 2 . 5 m
	コンクリート工		V=	5 , 6 5 5 . 0 m ³
側壁工	コンクリート工		V=	1 , 5 5 0 . 0 m ³

3. 建設工事に従事する労働者に対する安全衛生教育

(株)大本組では現場での労働災害及び事故の防止対策は重要であると考え、常に力を入れて取り組んできています。安全設備、建設機械等は進化し、労働災害・事故は減少していますが、ヒューマンエラーによる労働災害・事故は一向に減少することが無い状況にあります。今後は如何にしてヒューマンエラーを減少させていくかが課題になっていくと考えます。

まず、“何が危険なのか”、“どのような対処方法があるのか”を認識することが大切になってきます。そのためには安全教育訓練の充実が必要不可欠となってきます。

安全衛生教育訓練も長期に渡る現場ではマンネリ化しつつありました。どのようにしたら、安全教育訓練に興味を持ってもらえるか、また有意義な時間になるかを考えた結果、建設業労働災害防止協会から講師を招き、『建設工事に従事する労働者に対する安全衛生教育』（6時間教育）を実施することと致しました。



安全衛生教育講義



安全教育資料

この『建設工事に従事する労働者に対する安全衛生教育』は、平成15年3月に国土交通省の建設工事事務事故防止対策の一つとして、建設工事従事者に対する安全衛生教育の実施が重点項目として示され、不安全行動の防止の観点から労働者が守らなければならない労働安全衛生法の遵守事項等の基本的事項について、周知徹底させるために建設業労働災害防止協会が定めた指針に基づく安全衛生教育になります。また、請負業者が外部機関を活用した安全衛生教育を実施した場合、工事成績評点での加点というインセンティブが与えられます。

講義の内容は、事前に現場の作業内容等の打合せを行い、砂防工事・その現場にあったプログラムで実施されました。最初は砂防工事等による労働災害事例と再発防止対策検討、続いて安全作業ビデオ、指差呼称、午後からは重機の死角の確認、グーパー運動、玉掛け・合図の実技訓練を行ないました。講習会は9時から16時（6時間）まで行なわれました。



実 技 訓 練

専門家の講師による講習は、私たちを飽きさせることなく、とても有意義な安全衛生教育となりました。今後、安全教育訓練を行っていく上での良い勉強にもなりました。

皆さんも機会があれば是非、受講してみてください。

4. 終わりに

平成13年に始まった本工事も5年間の歳月を経て、完成することとなりました。5年間という長い期間を無事故で終えることが出来たのも監督職員をはじめ、皆様方のご指導とご協力のもとと感謝しております。私は本工事の最後の2年間を現場代理人として、従事致しました。現在は新潟県の新潟西港において、護岸工事の現場代理人兼監理技術者をしております。砂防ダム工事とは工種や危険のポイント等は異なることが多いとは思いますが、砂防ダム工事で経験したものを活かし、今後役立てて行きたいと思っています。

最後になりますが、工事安全施工管理研究発表会はとても素晴らしい企画だと思います。関係各位様のご苦労はあると思われませんが、今後とも続けて行って頂きたいと思っています。



完成写真